


獨協大学長殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2021年4月1日	所属	国際教養学部言語文化学科
職名	教授	氏名	田口雅徳  印
研修種別	①. 海外 2. 国内	研修種類	①. 長期 2. 短期
研修期間	2020年3月31日 ~ 2021年3月31日		
学外における主な研修機関および訪問先			
自宅			
出張目的または研究題目			
凶形の一筆描き動作に関する比較文化的研究：日越独の学生を対象とした予備的検討			
資格 ①. 2019年度獨協大学学外研修員（派遣） 2. 本学承認の学外研修員（自費等） 3. その他（ ）			
大学から支給された費用（要清算書類）・補助金額			50万円
研修内容（1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入）			
1、研修経過 2020年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行は、様々な分野に甚大な影響をもたらした。教育・研究分野も例外ではなく、ドイツでは大学のおよそ9割が校舎を閉鎖しており、また65%の大学で夏学期の授業開始を延期したという。日本と同じくオンライン授業を実施したドイツ国内の大学は9割にのぼるとされる（河合ら、2020）。こうした状況のため、当初、ドイツのデュッセルドルフで研修する予定であったが、渡航中止を余儀なくされた。そこで、国内において文献資料の収集、これまでの予備調査などで収集したデータの分析をおこない、今後の研究の展望を得る			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

ことを本研修の目的とした。

従来、心理学の領域では、ヒトの認知や行動は時代や文化を超えて普遍の特性をもつと考えられてきた。そして、そうしたヒトに共通の心的特性を明らかにすることが心理学の使命であるとされてきたのである（北山・宮本，2000）。しかし、1990年代以降、心理学領域における比較文化的研究の増加に伴って、思考や推論、また注意や知覚など認知・行動の諸側面において、文化差がみられることが明らかとなってきた。

たとえば、Nisbett（2003）は、アジアと西洋の成人に対し、「パンダ、サル、バナナ」のうち共通性のあるものを2つ選ぶようにもとめた。その結果、日本を含むアジア圏の被験者は「サルとバナナ」を選んだ。「サルはバナナを食べるから」というようにある対象（サル）と、その対象の背景要因（バナナ）を包括的にとらえて回答する傾向にあるからだという。これに対して、西洋諸国の被験者は動物という共通点に着目し「パンダとサル」を選ぶとされる。これは、西洋の被験者に分析的な思考様式がみられるからだとされている。

個体は各々の文化的環境に適応するよう発達していくが、その発達の過程で、文化の各要素が個体の認知・行動のあり方を特定の方向へと誘導することになるという。その結果として認知や行動の諸側面に文化的な多様性が生まれることになるとされている（北山・宮本，2000）。こうした枠組みのもとで、今日、様々な実証研究が進められている。

円や三角形などの図形の描き方にも文化的な差異がみられるという。たとえば、日本の大学生が円を描く場合、円の左下（時計の文字盤の6～7時）に始点をとって時計回りに描いていくが、ドイツ語圏の大学生では7割が円の左上（時計の文字盤の11～12時）に始点をとって、反時計回りに描いていくことが示されている（Taguchi, 2010）。三角形など他の図形の描線動作でも、こうした文化差がみられることが実証されている。

こうした図形の描線動作にみられる文化差には、各文化圏で用いられている書字様式が強く影響していることが示唆されている。たとえば、中国、日本、台湾などの地域では、今日でも漢字が使用されている。こうした漢字圏の大学生を対象に図形の一筆描き課題を実施した結果では（たとえば、田口，2017）、円を時計回りに描き、三角形などの図形を上頂点から反時計回りに描く傾向が共通にみられたと報告されている。漢字の筆順には“上から下に書き進む”などの原則がある。漢字圏の被験者は、こうした漢字に固有の運筆を図形の描画にも適用しており、そのため漢字圏の大学生では共通の描線動作の特徴がみられたと考えられる。

欧米のローマ字圏の被験者を対象とした研究でも、描線動作に共通の特徴がみられている。たとえば、アメリカの被験者は円を反時計回りに描く傾向が強いが (Amenomori et al., 1997)、同様の傾向はフランス語圏の被験者を対象とした研究でも報告されている (Fagard & Dahmen, 2003)。ローマ字では、「c」や「e」のような円形の文字を反時計回りに書字する。こうした書字様式を図形の描画にも適用したために、ローマ字圏では円を反時計回りに描いたと推察される。

ところで、ベトナムはもともと中華文明の影響を強く受けており、「ベトナム語辞書に登録されている語彙の約7割は漢語起源」とされる。19世紀頃までは書きことばとして漢文および漢字由来のチュノム文字 (例えば、「字」や「𡇗」など) が使用されていた。しかし、19世紀末のフランスによる植民地化に伴ってローマ字表記となり、今日でもローマ字が使用されている (岩月, 2005)。このように、ベトナムは地理的にも、また歴史・文化的にも日本などの漢字圏と近縁の関係にある。しかし、文字表記ではローマ字を使用している。そのため、描線動作に関していえば、ベトナムの被験者は、アメリカやドイツ、フランスなど欧米のローマ字圏の被験者が示すのと同様の描線動作の特徴を示すことが考えられる。そこで、この点を検証するための予備調査として、ベトナム人留学生を対象に図形の一筆描き課題を実施して、日本人大学生およびドイツ人留学生のデータと比較をおこなうこととした。

データ分析の対象としたのは、日本に留学中のベトナム人学生5名 (男性1名、女性4名) とドイツ人学生6名 (男性5名、女性1名)、日本人の大学生5名 (男性2名、女性3名) であった。すべての被験者が右手で日常的に書字していることが確認された。被験者には円、三角形、菱形、五角形などの図形が事前に点線で記された実験用紙および筆記具 (鉛筆) を配布し、これらの図形をそれぞれ鉛筆で一筆描きするように教示した。実験者は被験者の描画開始位置および描画方向を記録した。円描画における描画開始位置は時計の文字盤 (1~12) をもとに12分類し、三角形の描画開始位置は上、左下、右下の各頂点の何れかに分類した。また、菱形の描画開始位置は上、左、下、右の各頂点の何れかに分類し、五角形の描画開始位置については上、左上、左下、右下、右上の各頂点の何れかに分類した。描画方向については各図形とも時計回り、もしくは、反時計回りに分類した。

各図形の描画開始位置および描画方向に関して、ベトナム人学生、ドイツ人学生、日本人学生の反応を比較した。その結果、円描画課題では、ベトナム人学生では円の上 (時計の文字盤の11~12時) を描画開始位置にして反時計回りに円を描く傾向があり、ドイツ人学生も、ベトナム人学生と同様に、円の上 (時計の文字盤の11~1時) を描画開始位置にして反時計回りで円を描く傾向がみられた。いっぽう、日本人学生では円の左下 (時計の文字盤の6~9時) あたりを描画開始位置にして時計回りに描いて

く傾向がみられた。つぎに、三角形、菱形、五角形の描画では、ベトナム人学生は各図形の上の頂点を描画開始位置にして、反時計回りに描く傾向がみられた。また、日本人学生も、ベトナム人学生と同様に、これら3つの図形では上の頂点を描画開始位置にして反時計回りに描いていく傾向がみられた。いっぽう、ドイツ人学生では、半数の被験者が日本やベトナムの学生と同様の描画反応を示したが、その他の被験者は各図形の左側の頂点を描画開始位置にして、時計回りに描いていた。

以上の結果から、ベトナム人学生は表記文字としてアルファベットを使用しているが、同じくアルファベットを表記文字として使用しているドイツ人学生とは、描線動作の特徴がやや異なることが示唆された。すなわち、三角形や菱形、五角形などの描画では、ドイツ人学生とは異なり、上の頂点から反時計回りに描く傾向が示されたのである。こうした描線動作の特徴は、日本人学生の描線動作に類似するものであった。また、先行研究の知見から、そうした特徴は漢字圏の被験者にも共通にみられる特徴であった。ベトナム人学生の描線動作には、漢字圏の描線動作の特徴が部分的にみられることが示唆されたといえよう。

このようなベトナム人学生の描線動作の特徴が、どのような要因から生じているのかを検討することが今後の課題だともわれる。まずは、書字技能の習得との関連から、ベトナム人に固有の描線動作の発達を検証していくことが求められるといえる。そして、そのためには、文字の習得期にあるベトナムの幼児・児童を対象に、描線動作に関するデータの収集をおこなう必要があるだろう。そうした実験の実施に向けて、今後、研究計画の精査を進めていく予定である。

本研修における研究成果および今後の研究課題は、以上のようにまとめることができる。

2. 研究成果発表の予定 本研修で得られた知見については、上述の予備調査の結果を中心に本学刊行物にて報告する予定である。また、上述したように、本研修の成果を発展させ、新たにデータ収集を進めていく計画であり、その成果については、心理学関連の学会において発表していくことを予定している。

3. その他 特記事項はない。